

『鎌倉殿13人と樋爪氏』

元平泉町職員 八重樫忠郎氏講演

本会主催事業である定期講演会は6月と12月の年2回開催計画し、本会設立以来数えて27回目の講演会を6月12日(日)赤石公民館において開催した。講演会の講師として、元平泉町職員の八重樫忠郎氏を招聘して講演が行われ、約40人の聴講者は熱弁を聞き入った。

「鎌倉殿13人と樋爪氏」の講演した内容からごく一部の事柄について紹介します。

泰衡と義経

秀衡卒去1187年10月29日条 前伊子守義顕をもって大將軍として国務にせしむべき由、男泰衡以下に遺言

秀衡妻を太郎国衡に再嫁させ、小次郎泰衡を当主に 一味神水の儀

1188年4月9日条 基成、泰衡、義経が陸羽出羽を不当に支配

1189年4月30日条 義経自害

1189年6月13日条 義経の首、鎌倉に到着

1189年6月26日条 忠衡殺害

奥州合戦の樋爪氏

1189年9月3日条 泰衡、河田に殺害される

1189年9月4日条 泰衡が親昵の俊衡法師比爪館を焼いて逐電

1189年9月15日条 俊衡子弟を伴い降伏(息子3人と弟と弟の息子)

1189年9月16日条 法華経者俊衡に本所(比爪)安堵

なぜ、俊衡は戦わなかったのか?

【写真】講師である
八重樫忠郎氏の熱の
こもった講演の様子



今回の定期講演会におけるアンケート結果

16人より回答

★「鎌倉殿13人と樋爪氏」の講演会に参加しての感想 (5段階評価を4段階まで掲載)

- | | | | | |
|-----------|------------|-------|-------|------------|
| 1. 全体的な印象 | ・とても良い 12人 | ・良い3人 | ・普通1人 | ・あまり良くない0人 |
| 2. 講演のレベル | ・ちょうど良い10人 | ・良い5人 | ・普通0人 | ・少しやさしい 1人 |
| 3. 満足度 | ・とても満足 9人 | ・満足5人 | ・普通2人 | ・少し不満 0人 |
| 4. 後援会の運営 | ・とても良い 9人 | ・良い3人 | ・普通4人 | ・あまり良くない0人 |
| 5. 講演会の会場 | ・とても良い 7人 | ・良い8人 | ・普通1人 | ・あまり良くない0人 |

★「鎌倉殿13人と樋爪氏」の講演会に参加して気づいたことなど自由記入

- ・初めての参加でしたが、とても楽しい時間でした。大河ドラマの見方が少しかわりそうです。
 - ・わかりやすく説明していただいて楽しく聞くことができました。
 - ・大河ドラマを観ているので、私でも理解しやすいところが多かった。とてもおもしろかった。
 - ・樋爪館を知るには鎌倉幕府頼朝と平泉の関連性を知ることが重要と感じました。
- さかのぼれば安倍氏の歴史が重要であるとの認識に至りました

《《《7月～8月 行事予定のお知らせ》》》

7月20日 (水曜日)	第131回 月例発表会	時間 午後7時から午後9時 会場 赤石公民館 講議室 発表者 宮 良 男 テーマ「『善光寺前立観音ご開帳』と禅宗とは？」
8月17日 (水曜日)	第132回 月例発表会	時間 午後7時から午後9時 会場 赤石公民館 講議室 発表者 平井 和 夫 テーマ「『吾妻鏡』で見る、北条義時」の続き

赤石小学校6年生 社会科見学 本会遺跡案内人が対応

赤石小学校6年生(65人)は総合学習の一環として、社会科見学「紫波の歴史」について2回にわたって行われ、本会の遺跡案内人活動である出前講座を現地や学校で対応した。

★6月2日(木) 陣ヶ岡史跡と高水寺城跡(変更あり)

当日、陣ヶ岡史跡の歴史については現地にて説明したが、日詰の北側に熊が出没したとの情報により町が城山公園(高水寺城跡)への入場を規制したため、高水寺城跡については学校に戻ってから「紫波町の城跡」というテーマでプロジェクターにより説明した。



本会の遺跡案内人が陣ヶ岡史跡、高水寺城跡(変更し紫波町の城跡)について説明した。
左: 陣ヶ岡蜂神社前
下: 学校で映像にて



上の写真に写っている全域が高水寺城跡であり、その規模は、東北有数の大きさを誇っている。

陣ヶ岡は、天喜4年(1056)に源頼義が本陣を置いたことが名称の由来で、合戦が終了した康平5年(1062)に戦勝の報恩として蜂神社を建立したと伝える。

藩政時代は「八幡堂」と呼ばれ、俗人別当社堂であったとする。明治元年(1868)に旧社号である蜂神社に改称した。



★6月16日(木) 樋爪館跡と五郎沼周辺史跡

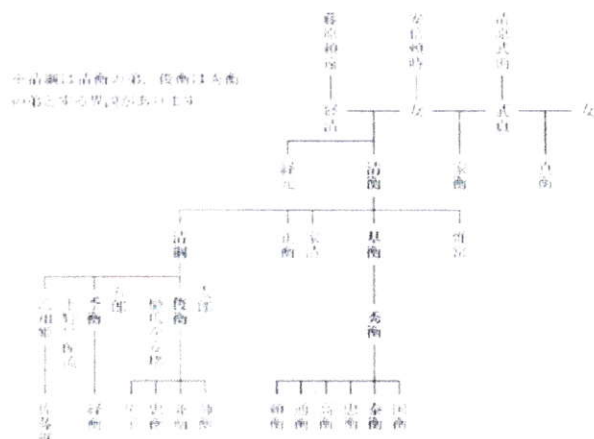
奥州藤原氏の系図、樋爪氏の流れを現地に行く前に全体で学び、その後、4班に分かれて樋爪氏の居館であった樋爪館跡の発掘調査や五郎沼周辺の史跡、古代ハスの由来等を本会の遺跡案内人4人が持ち場を分担し、各々現地のキーポイントにおいて説明した。

主なところは①樋爪館跡 ②発掘調査状況 ③五郎沼古代ハス ④五郎沼今昔 ⑤黄金伝説・山吹川 ⑥五郎沼経塚跡 ⑦伝説・夜泣き石 ⑧石卒都婆群 ⑨大莊厳寺跡等であり、校外学習において「樋爪館(奥州藤原氏の第二の拠点)」の一端を学ばれた。



【写真】 樋爪館跡(赤い線の内)と、その下は五郎沼樋爪氏による奥州北部支配の拠点跡。その周辺を含め規模の大きさ等が見直されてきている。

奥州藤原氏樋爪一族系図



児童たちは、2回にわたった社会科見学において、本会遺跡案内人の話に耳を傾け熱心にメモを取りさらに質問するなど、古代のロマンに思いをはせた貴重な体験をされた。